おいしいオーガニック革命

NEWS 大地を守る

2015年 3月号 vol.345 3

発行：株式会社大地を守る会　TEL 03 3402 8841　csr@member.daichi.or.jp
東京都港区六本木6-8-15 第2五月ビル2階　FAX 03 3402 5590　http://www.daichi.or.jp/
～大地を守る会の活動レポート～『ブログ大地を守る』 http://www.daichi.or.jp/blog/report/

大地を守る会 DAICHI WO MAMORU KAI

久之浜港で漁師の新妻竹彦さんとともに未来の大漁を願って。

東日本大震災から4年 復興の歩みを見つめて

日本人にとって忘れることのできないあの日から4年の月日が流れようとしています。復興の歩みは一様ではありません。“未曾有の事態”が今も続いている地域があります。今回の特集では、昨年行った「福島県いわき市・富岡町を訪ねるツアー」と、大地を守る会で復興支援商品として取り扱う「国産菜種油」の生産現場の様子をご紹介します。復興に向けて各地で奔走する人たちの声に耳を傾け、一人ひとりができることを改めて考えてみましょう。

栃木県のなたねの畑で笑顔を見せる民間稲作研究所の稲葉光國さん（写真左）。

福島県いわき市・富岡町を訪ねるツアー

自分たちの目と耳で被災地の現状を知るために

大地を守る会では、2014年12月に福島県のいわき市と富岡町を訪ねる1泊2日のバスツアーを行いました。自分たちの目と耳でいわき市の漁業や富岡町の現状を見つめ、原発や震災についていま一度考えるきっかけにしたいと考えたからです。
※数値は取材時のものです。

いわき市の漁師や生産者が抱く復興への想いとは

ツアーは、いわき市に位置する小名浜水産試験場で福島県の漁業の現状を学ぶことから始まりました。沿岸漁業と底引き網漁業が盛んだった福島県は、福島第一原子力発電所の事故により現在でも操業が自粛されています。このようななか、毎週1回、約180検体の魚介類を採取して放射性セシウムの影響を調べ、検査結果を新聞や水産試験場のホームページで公開しています。そして、安全が確認された魚介類を販売まで試験的に行う「試験操業」を実施。当初3種のみだった魚種は、安全が確認されたものを次第に追加し56種にまで増えています。まだ漁獲量はわずかですが、東京都や宮城県など15都府県の市場へ出荷できるようになりました。

試験操業で水揚げされた魚を取り扱っている大川魚店に立ち寄ってみると、いわき産のホッキ貝が販売されていました。社長の大川勝正さんによると、試験操業で水揚げされる魚介類は限られていますが、入荷できたときは福島県産のコーナーをつくり販売しているとのことです。最初はまったく売れなかったそうですが、「今では、お客さんの多くが抵抗なく購入しています」とのことで、復興への手応えを感じています。

小売業にとってお客さん一人ひとりは、復興の力になる存在です。いわき市にある道の駅「よつくら港」で「駅長」を務める白土健二さんも、地域のお客さんたちに力をもらった一人です。太平洋に面した施設は、震災によって大きな被害を受けましたが、登録生産者の協力もあり、2011年6月には追悼イベントを開催。「来てくれたお客さんの笑顔

大地を守る会 社長 藤田和芳 一粒万倍

中国の北京に北京ダック専門の「全聚徳（ぜんしゅとく）」というお店があります。150年も続いている老舗です。世界中から、このお店の北京ダックを食べたいと大勢の人たちがやってきます。中国の人たちも、「全聚徳」で北京ダックを一度は食べてみたいと誰もが思うほどの人気のお店です。10年ほど前に、「全聚徳」の社長に会う機会がありました。「140年も続いた理由は何ですか？」と質問してみました。すると社長は、「伝統的なものは安定感がありますが、融通が利かず、魅力に欠ける場合があります。一方、新しいものは革新的で魅力的なことが多いのですが、往々にして不安定なものです。私たちの店は伝統的なものを大事にしながら、その上にいつも新しいものを接ぎ木しようと努力してきたのです」と答えてくれました。伝統的なものをベースにしながら、いつも新しいものを接ぎ木する。このことは、あらゆることに通じるような気がします。組織も会社も社会も、この伝統的なものと新しいものの融合こそが、持続可能性につながるものだと思うのです。

新規入会受付中！お友だちをご紹介ください。 0120 158 183

を見て、よし、がんばろうと思いました」と白土さんは当時を振り返りました。

続いて、いわき市でもっとも被害の大きかった薄磯地区を視察したのち、北上して久之浜港へ。ここでは、いわき市漁業協同組合久之浜支所・熊野丸の漁師である新妻竹彦さんに、漁師の現状と想いを聞きました。試験操業に参加している漁師の数は、214名(2014年6月現在)で全体の2割程度です。新妻さんは試験操業を見合わせており、震災後、まったく漁をしていません。「モニタリングによって福島の魚は『安全』に近づいています。ただ、『安心』というのは消費者がどう感じるか。消費者の価値観で判断してもらうほかないと思います」(新妻さん)。試験操業では、仲買人が漁業組合へ行き、水揚げされた魚を買い付けて市場へ卸します。「漁師と仲買人が両輪となって知識やノウハウを集約し、復興へ向けて前進していくのが一番だと思う」という新妻さんは、慎重かつしっかりと福島の漁業の未来を見つめています。

夜になり、海の現状を自主調査しているいわき海洋調べ隊・うみラボのメンバーである小松理虔さん、八木淳一さん、石井宏和さんから活動内容について伺いました。皆さんは、2013年11月から2カ月に1回のペースで原発沖1・5kmの海域の海洋調査を行っています。いわき海洋調べ隊・うみラボという一般市民による調査は、東京電力に対して「市民も監視しているのだ」というアピール材料になる、という言葉が心に残りました。

1津波の爪痕がそのまま残る富岡駅。2大量に積み上げられたフレコンバッグの山。3富岡町の小学校跡地を見学。4復興の歩みを感じるいわき産のホッキ貝。

大地を守る会の生産者である小林勝弥さんと美知さん夫妻のハウスを見学し、お話を聞くこともできました。震災で人的被害は免れましたが、数カ所に点在していた畑は、津波によって塩害を受けてしまいました。大地を守る会は、除塩の支援をしたうえで、安全が確認された野菜を取り扱うことで復興支援を続けています。

ツアー参加者がおじゃましたときは、春菊が旬を迎えていました。くみ上げた地下水を畑にかけ続けることで、ゾウムシやアブラムシから春菊を守るなど、震災前と同じように農薬や化学肥料に頼らない農業を続けています。仕事のやりがいを聞いてみると、大地を守る会を介して届く連絡便に書かれた消費者会員の「おいしかった」のひと言が、大きな励みになっているそうです。

大川魚店の社長、大川勝正さん。試験操業で獲れた魚はこの看板を出して販売。

避難指示が続く富岡町を視察 被災地の真の姿とは

ツアー2日目は、いわき市から北上し、富岡町を視察しました。富岡町は、浜通り地区のほぼ中央に位置し、震災直後、警戒区域に指定された町です。のちに町内は区域再編によって3つに分けられましたが、現在も避難指示が続いており、人が住むことのできない場所であることに変わりはありません。

富岡町の視察は、ふたば商工株式会社の渡辺和則さんと藤田大さんの案内によるものです。同社は、町商工会メンバーの有志たちが立ち上げた会社で、主要事業の視察ツアーをはじめ、物品販売、ボランティア支援、交流サロンの運営など、多彩な事業を通じて地域再生を目指しています。「震災後、自分たちの手でやれることをやろうという仲間が集まってふたば商工の設立に至りました。仲間との出会いが生きる力につながっています」(渡辺さん)。視察ツアーは、原発事故の風化に歯止めをかけたいという想いとともに、補償の有無などを要因とする住民同士のあつれきをやわらげたいという願いから始まったものです。

富岡町をバスで走ると、壊れた建物や津波に流された車がいたるところに放置されている一方、あちらこちらで道路や汚染土壌を保管するための巨大な建物が建設中です。また、汚染土壌を収納しているフレキシブル・コンテナバッグ(通称フレコンバッグ)がいたるところに山積みになっています。津波によって破壊された建物と真新しい建設物、フレコンバッグが入り交じる光景は違和感を覚えるものであり、富岡町が復興の道半ばであることを物語っているかのようでした。

昼間は建設作業員の姿も多く、町には活気があると思いがちですが、夜になれば無人の町になります。また、一見、壊れていないように見える家屋もあります

市民参加の海洋調査を行う、いわき海洋調べ隊・うみラボの小松理虔さん。

漁師歴30年、いわき市漁業協同組合久之浜支所・熊野丸の新妻竹彦さん。

「また仕事ができることに感謝」と語る、道の駅「よつくら港」の駅長、白土健二さん。

飛び入りで参加してくれた、大地を守る会の生産者・小林勝弥さんと美知さん。

いわき海洋調べ隊・うみラボの石井宏和さん。「魚が増えているのが希望」。

いわき海洋調べ隊・うみラボの八木淳一さん。「現状をいろいろな人に知ってほしい」。

いわき市の薄磯地区では、震災後、語り部として活動する大谷慶一さんから当時の様子を伺いました。

ふたば商工株式会社の藤田大さん。「現地で見て聞いて感じてほしい」。

被災地の視察ツアーを主催する、ふたば商工株式会社の渡辺和則さん。

せのさくい いなくみで かいもかん コ コえし

手島奈緒(てしまなお) vol.6

鳥取県生まれ。大地を守る会元職員(広報・青果担当)。2010年「ほんものの食べものくらぶ」を設立、食べる人と作る人をつなぐ活動に取り組んでいる。著書に『いでんしくみかえさくもつのないせいかつ』(雷鳥社)、『まだまだあった!知らずに食べている体を壊す食品』(アスコム)。

「遺伝子組み換え作物」がどれくらい輸入されているのか? どれくらい食品に使われているのか?
1カ月間、遺伝子組み換え食品のない生活に挑戦した著者が、遺伝子組み換え作物についてわかりやすくお知らせします。

すでに栽培されている? 遺伝子組み換え作物 日本での商業栽培は難しい?

トウモロコシ、大豆、なたねなど、海外から大量の遺伝子組み換え作物を輸入している日本ですが、現在のところ、国内で商業栽培はされていません。農水省の「カルタヘナ法に基づき第一種使用規程を承認した遺伝子組換え農作物一覧」を見ると、法的に栽培が認められているものは数多くありますが、実際に栽培されているのは青いバラのみ。その他の作物については試験栽培のみとなっています。商業栽培するには、近隣の農家の理解を得ることが必要とされていることや、遺伝子組み換え作物に対する漠然とした不安が十分に払拭されていないことなどが理由でしょう。

日本では大規模栽培ができて利益が出る穀物は米のみ。その他は助成金なしでは栽培できないため、遺伝子組み換えの穀物を国内で栽培する可能性はかなり低くなります。

商業栽培される可能性があるのは北海道

もうひとつの理由が、遺伝子組み換え作物はそもそも大規模農業に向くということです。アメリカやオーストラリアでは、一枚の圃場の面積が100ヘクタール以上という大規模栽培を行っており、日本のように10アール単位の小さな畑でていねいに作物を作ってはいません。穀物は小規模栽培では生産費が高くなり利益が出ませんから、遺伝子組み換え作物を栽培するのに適している土地は、日本では北海道しかないと言ってもよいのです。しかし、2005年3月31日、北海道では「北海道遺伝子組換え作物の栽培等による交雑等の防止に関する条例」が公布され、道内で遺伝子組み換え作物を栽培する場合は、2006年1月から知事の許可(試験研究機関の試験栽培の場合は届出)が必要となりました。

このような事情から日本では商業栽培がされていませんが、昨今そうも言っていられない状況になりつつあります。

が、人が住んでいないことで雨漏りなどの損傷が進んでいるほか、ネズミやハクビシンなどの野生動物が棲みついています。被災地に対して「時が止まったまま」という表現をよく耳にしますが、決してそうではありません。「あの日から変わっていないのではなく、悪くなっているんです」(藤田さん)。

富岡町の視察を終えたツアー参加者は、自分の目で見て、耳で聞いたことを一人でも多くの人に伝えることが大切であるとの想いを一つにしました。

グリーンオイルプロジェクト

福島県の生産者を支え、国産原料の食用油を消費者へ

大地を守る会では、2014年10月から福島県と栃木県のなたねからつくられた「国産菜種油」を販売しています。これは、民間稲作研究所(栃木県上三川町)が震災後に始めたグリーンオイルプロジェクトによってつくられたものです。「国産菜種油」の生産現場を訪ねて、プロジェクトへの想いを伺いました。

油脂作物を育て福島県の農地を再生

訪れたのは、いまだ震災の風評被害が続く栃木県上三川町です。グリーンオイルプロジェクトは、民間稲作研究所理事長の稲葉光國さんが、震災前、福島県南相馬市で米と野菜の有機栽培に取り組んでいた杉内清繁さんを支えようと始めたものです。二人は、ウクライナで行われた「菜の花プロジェクト」に着目し、油脂作物栽培による油の販売を考えました。同プロジェクトは、大地を守る会とも親交のあるNPO法人チェルノブイリ救援・中部の理事の河田昌東さんによるもので、油脂作物は、土壌のセシウムを吸い上げる能力が高いことが研究でわかっています。グリーンオイルプロジェクトは、農地を再生しながら国産の油を消費者に届けることが目的です。

杉内さんが南相馬市で農薬を使わずになたねの栽培を始めるとともに、稲葉さんは栃木県の生協や知人に手紙を出して支援金を募りました。多くの賛同とともに集まった780万円の支援金で民間稲作研究所内に搾油所を建て、韓国でスクリュー式の搾油機を購入。スクリュー式は、ゆっくりと種子を潰しながら油を搾ることができます。

「2012年の後半にようやく販売できる油ができました。当初5トンほどだったなたねの収穫量は、2014年に約20トンになりました」(稲葉さん)。杉内さんが育てたなたねはすべて栃木県上三川町にある搾油所に運び、商品化しています。

ここで気になるのは、油脂作物に吸収されたセシウムは油に移行しないのだろうか、という疑問です。先の「菜の花プロジェクト」では、放射性物質汚染地域で栽培されたなたねの種子中のセシウムは油に移行しないことがわかっています。問題になるのは、油を搾った際に含まれる不純物ですが、精製度を高めることでセシウムを除去することができます。稲作研究所内では、搾った油を時間をかけて沈殿させて澱(おり)を除去し、民間の工程を十分に行っています。また過地を守る会の放射能測定でも、放射能不検出を確認しています。

手間と時間をかけて精製と放射能測定をすることで、安心して口にできる食用油が作られています。

国産原料を用いた希少な食用油を精製

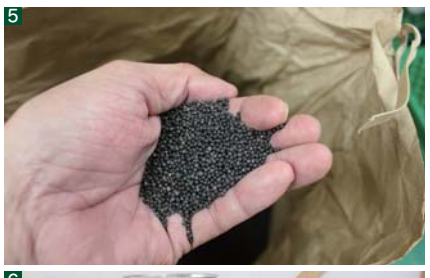
「国産菜種油」の搾油所へ入ってみると、まず油が酸化したときのにおいがしないことに驚きます。できるだけ酸化しにくくするため、焙煎しないコールド製法で搾油し、搾油所の室温は常に17℃に保っています。コールド製法は、もともと果汁を搾るときに熱に弱いビタミンCなどを温存できる製法で、それをなたねの油に応用したのです。

なたねを搾ってからビン詰めするまでの工程も、室長の國弘雄二さんに教えていただきました。まず、なたねを搾機で搾ります。搾った油をホーローの容器で静かに保管し、1週間ほどかけて不純物を沈殿させます。そして、澄んだ油の部分だけを4枚重ねにしたコーヒーペーパーホルダーで2回ろ過しながらガラス瓶へ小分けします。

国産の原料からつくられる食用油は希少な存在です。油脂作物によって被災地の農地が再生できるだけでなく、油を販売することで生産者の経営を手助けすることができます。また、消費者に国産原料の食用油を提供できることは大きな利点に違いありません。

搾油所を見学したあとは、稲葉さんが育てるなたねの畑へ案内していただきました。現在は耕作面積が限られていますが、栃木県でなたねを栽培する畑を増やしていこうというれしい動向もあるそうです。取材当時小さかったなたねは、大きく成長して4月の下旬には黄色の花が満開になります。

復興はまだ道半ばですが、どこに住んでいても誰であっても、手を差し伸べることはできます。小さな努力の積み重ねが確かな復興の歩みとなるよう、これからも大地を守る会は生産者を応援するとともに、生産者と消費者をつなげていきます。



5搾る前のなたね。品種はキラリボシです。6搾油機の手前側に油が搾り出され、右側にある筒状の部分から搾りかす出てくる構造。廃食油によるディーゼル発電機で稼動しています。7手間と時間を惜しまずにろ過。「ていねいにろ過を繰り返すと、比較的サラサラした油になります」と國弘さん。

プロジェクトが軌道に乗ってきたと、民間稲作研究所理事長の稲葉光國さん。

グリーンオイルプロジェクト室長の國弘雄二さん。ガラス瓶などの容器は固形石けんで洗浄しているそう。

復興につながる1本

同時配布の『ツチオーネ』111号でご紹介しています。

国産菜種油(菜種プロジェクト)

37ページ

放射能汚染浄化のために栽培した菜の花の種を生搾りした油です。不織紙を通して滴下精製。放射性物質を完全除去。

Phytomente ファイトメンテ キレイにうれしい野菜力

〔麻布医院院長・医学博士〕髙橋弘先生の

ファイトケミカル食革命 最終回

髙橋弘(たかはし ひろし)

1951年生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。ハーバード大学医学部内科元准教授。麻布医院院長、医学博士。日本肝臓学会肝臓専門医、米国癌学会正会員。主な著書に、『ガンにならない3つの食習慣』(ソフトバンク新書)、『免疫を整えるレシピ』(監修、エビデンス社)、『病気を治す!命の新・野菜スープ』(宝島社)、『ハーバード大学式「野菜スープ」でやせる!若返る!病気が治る!』(マキノ出版)など多数。

ファイトケミカルのアンチエイジング作用 その3

今回は、免疫、脳、目、そして骨のアンチエイジング作用を持つファイトケミカルについて解説します。

免疫の老化を防ぐファイトケミカルには、生姜のジンゲロール、にんにくのにおい成分であるアリシン、ニンジンのβ-カロテン、きのこ類のβ-グルカン、海藻類のフコイダン、バナナのオイゲノールなどがあります。これらのファイトケミカルは、NK細胞(ナチュラルキラー細胞)やTリンパ球、貪食細胞などの免疫細胞を活性化させ、白血球を増やし、免疫力を維持します。

脳の老化を防ぐファイトケミカルには、いちごのフィセチン(記憶力を改善し、アルツハイマー病の発症を予防する)、紅茶やウーロン茶のテアフラビン(加齢に伴う認知症を予防する)、赤ワインのレスベラトロール(脳の機能を改善し、認知症やアルツハイマー病のリスクを下げる)、ローズマリーのカルノシン酸(記憶力を改善し、脳虚血による神経細胞死を防ぐ)、玄米やコーヒーのフェルラ酸(アルツハイマー病の認知症を改善する)などがあります。

目の老化を防ぐファイトケミカルとしては、ブルーベリーのアントシアニン(眼精疲労を解消する)、ほうれんそうのルテインやとうもろこしのゼアキサンチン(加齢性網膜黄斑変性症や白内障を改善する)、温州みかんのβ-クリプトキサンチン(老化による視力低下を予防する)などがあります。

そして、骨の老化、すなわち骨粗鬆症を防ぐファイトケミカルには、大豆のイソフラボン、ニラや赤玉ねぎ、ブロッコリーなどに含まれるケンペロールなどがあります。

このように、ファイトケミカルには免疫、脳、目、そして骨を若々しく保つための優れた機能が備わっているのです。ファイトケミカルのチカラで、より元気に若々しい毎日を送っていただけることを願っています。これまでありがとうございました。

髙橋先生が監修している大地を守る会のファイトケミカルシリーズ「ファイトメンテ」は、『ツチオーネ』や大地を守る会のウェブストアでご注文いただけます。

GLOBAL REPORTS

2014年11月の農道。舗装され電線も敷設されました。オリーブの木と建物が増えたことがわかります。

2007年完成時の農道。未舗装路ながら車が走れるようになり、オリーブ畑の手入れや収穫も楽になりました。

パレスチナ訪問報告

『NEWS大地を守る』1・2月号で互恵のためのアジア民衆基金の総会について報告しましたが、総会が行われたパレスチナ・ヨルダン川西岸地区（以下、西岸地区）は、大地を守る会が取り扱うオリーブオイルの産地でもあり、さまざまな支援をしている地域でもあります。今回はその支援の現状をご報告します。

（国際局　豊島洋）

ガザ地区への支援状況

昨年7月からのイスラエル軍によるパレスチナ・ガザ地区（以下、ガザ地区）への攻撃は、2008年以来の大規模なものでした。8月26日の停戦後、日本での報道が少なくなり、あたかも平和が訪れたかのような印象を受けますが、インフラやライフラインが破壊されたまま、家や仕事を追われた人びとはいまだに困窮状態に置かれています。イスラエル軍によるガザ地区の封鎖は強化されたまま継続し、物資の搬入も制限されており、復興の遅れにつながっています。国連人道問題調整事務所（OCHA）によると、この戦闘で1万8,000軒以上の家屋が破壊され、2014年10月15日時点で、10万人以上がいまだに住むところを失ったままです。また、オリーブオイルの製造団体であるUAWC（パレスチナ農業開発委員会）からの情報によると、60万人以上が生活に必要となる十分な量の水を手にすることができておらず、25万人以上が緊急の食糧支援を要している状況です。

大地を守る会は緊急支援として、昨年8月にインターネットを通して募金を呼びかけ、67,000円をお預かりいたしました。この支援金は、オリーブオイルの販売元であるATJ（オルター・トレード・ジャパン）の運動部門、特定非営利活動法人APLAを通して現地に送られました。その後10～12月まで長期的な支援を募り、さらに632,500円をお預かりしています。この支援金も現地に送金され、食料・日用品を箱詰めにした「フード・バスケット」として、西岸地区からガザ地区へ運ばれる予定です。詳しい情報が入りましたら改めてご報告いたします。

西岸地区で支援物資を仕分ける様子。ガザ地区の封鎖はいまだに厳しいままです。

オリーブ畑に建設した農道の現状

2006年、パレスチナのオリーブ農家からの要望に応え、「パレスチナのオリーブ畑に農道を作るプロジェクト」を立ち上げました。西岸地区では、イスラエルの国策として入植地が多く作られています。入植地とは、イスラエルが西岸地区内に作るイスラエルの町です。自治区と言いながら次々と西岸地区の中に町を作り、それを守るために軍隊を駐留させているため、実質的に西岸地区はイスラエルの占領地となっています。そして、入植地同士を結ぶイスラエル人専用の幹線道路が整備され、パレスチナ人の移動が困難になっています。そのような状況の中、オリーブ畑は移動が不便な場所にも多くあり、農作業がしにくいため、農道を作ってほしいという声がオリーブ農家から上がりました。

そこで、会員の皆さんに支援を呼びかけたところ、1,487名の方から1,449,000円が集まり、2007年6月、UAWCの主導により約1.3キロの農道が完成しました。オリーブ畑は、石ころだらけの荒れた丘陵地にオリーブの木が植えられているのが普通で、農道も整備されたものではなく、車も入ることができず、ロバや徒歩で作業に向かうというところが多いです。未舗装の短い農道ではありますが、そのようなところに完成させることができ、多くの農民に喜ばれました。昨年11月に再度訪問したところ、村役場により舗装がされて立派な農道に変わっていました。道沿いに植えられたオリーブの木が増え、家が建ち、地価が30倍になったとのことです。なにより、遠い日本から支援してくれている人たちがいるということに勇気づけられる、とのことでした。

オリーブ畑でよく見られる農道。歩くか、ロバで移動することしかできません（農道を作った場所とは別の地域です）。

平和の願いを込めたオリーブの苗木を

西岸地区に駐留するイスラエル軍は、入植地の住民の安全を確保するという目的で、パレスチナ人のオリーブ畑をしばしば破壊してきました。通常、入植地は丘の上に作られ、パレスチナ人は谷に住んでいるため、入植地から見ると下からパレスチナ人が攻めてくるのでは、という不安があります。そこで人が隠れやすいという理由などで、オリーブ畑を一夜にして重機で破壊してしまうことがあります。数百年を経たオリーブの木々も、あっという間に根から掘り起こされてしまいます。その後放置されたオリーブ畑は、放棄地としてイスラエル側に接収されてしまうこともあるといいます。

その暴力的な政策に反対し、平和の象徴としてオリーブの苗木を贈る支援が「スマイルオリーブ基金」です。暴力に対して暴力で対抗するのではなく、オリーブの苗木を植え続けるのです。パレスチナ人にとってオリーブは、古くはローマ時代から栽培してきた主な農産物。まさにパレスチナ人の命ともいえる作物です。オリーブオイル1本の販売額から、大地を守る会が8円、ATJが8円、そして購入される会員の方が8円、合計24円が基金として蓄えられ、UAWCへ送金され、オリーブの苗木を購入して必要な地域に植えられます。2012年10月～2014年12月、784,124円（スマイルオリーブバレンタイン企画分を含む）がUAWCに送金されました（苗木約2,300本分）。昨年11月に訪問したアクラバ村では、受益者となる農民たちと会い、荒涼とした丘陵地で風に揺れる若い苗木たちを確認することができました。

イスラエル側は「安全を確保するため」という理由で、樹齢数百年のオリーブの木を根こそぎ引き抜いてしまいます。中にはイスラエル側に運ばれ、植え直されることもあるそうです。

アクラバ村の苗木を植える土地で働く農民たち。老木の間にスマイルオリーブ基金による苗木が植えられていました。収穫できるまで3～4年かかるそうです。

おいしい
オーガニック
革命

イベント大地を守る

大地を守る会では、大地を守る会の理念に沿って、食と暮らしに関する多様なテーマによる企画を行い、ご紹介しています。

No.01 福島県二本松・南相馬交流ツアー

二本松の生産者を訪問・交流、南相馬のグリーンオイルプロジェクト、農業と再生可能エネルギー共存事例を見学

一般の方も
お申込みOK

福島県の生産者を訪問して交流するツアーです。二本松では、生産者の「農家民宿」に泊めていただきます。翌日、南相馬では、現在すすめられている放射能対策の取り組み「グリーンオイルプロジェクト」を見学し、再生可能エネルギーと農業の共存事例の現場を訪問します。避難生活を余儀なくされている南相馬市小高区の住民の方たちとの交流も予定しています。福島県の現状や、有機農業を通して行われているさまざまな取り組みを知り、福島県の生産者の皆さんと親睦を深めましょう。

2014年8月に行われた二本松の見学会の様子。

夜間立ち入り禁止区域となっている南相馬市小高区。

2015.3.21(土)～22(日)

●**訪問先**…… 福島県二本松市、南相馬市(羽山園芸組合、福島県有機農業ネットワーク、南相馬菜の花プロジェクト、えこえね南相馬研究機構)
※JR東北新幹線「郡山駅」集合、「福島駅」解散となります。

●**参加費**…… 大人(中学生以上) **12,000円**
子ども(小学生以上) **9,000円**
幼児 **無料**(食事は付きません)

●**定　員**…… 25名

●**受付締切**… 2月20日(金)

●**お問合せ**… CSR推進部・秋元

日程表(予定)

■**3月21日(土)**
【朝食× 昼食○ 夕食○】
10:00JR東北新幹線「郡山駅」集合、貸切バスで二本松市へ→羽山、東和地区の生産者を訪問→道の駅東和で昼食→農家民宿泊

■**3月22日(日)**
【朝食○ 昼食○ 夕食×】
貸切バスで南相馬市へ→グリーンオイルプロジェクトの畑・生産者を訪問・見学、再生可能エネルギーと農業の共存事例現場を訪問→17:00JR東北新幹線「福島駅」着・解散

※自然条件などにより、内容が変更される場合があります。
※集合場所「郡山駅」までの交通手段、解散場所「福島駅」からの交通手段は各自でご手配ください。
企画:株式会社大地を守る会
募集型企画旅行:福島交通観光株式会社(観光庁長官登録旅行業第1034号)

No.02 春の三浦・大根収穫交流会

春一番の産地交流会！ お子さんと一緒にたくさん大根を収穫しましょう

相模湾が一望できる広い畑で、大根の収穫体験を楽しみませんか？　大きな大根も意外と簡単に「スポン！」と抜けて、子どもたちも大喜びです。収獲体験後は三浦のお母さんたち特製の大根汁で、身も心も温まりましょう。家に持ち帰る分を収穫したら、少し生産者の出荷のお手伝い。たくさんの大根を抜いてお手伝いしましょう。

たくさん大根を抜きましょう！

2015.3.22(日)
11:30－14:00

●**訪問先**…… 黒崎有機栽培研究会の大根畑(神奈川県三浦市)
アクセス:京浜急行三崎口駅より徒歩20分
※現地集合・解散となります。

●**駐車場**…… なし
※自家用車での参加はできません。

●**講　師**…… 黒崎有機栽培研究会の皆さん

●**参加費**…… 大人(中学生以上) **1,000円**
子ども(3歳以上) **500円**
3歳未満 **無料**

●**定　員**…… 150名

●**受付締切**… 3月6日(金)

●**お問合せ**… CSR推進部・鈴井

※参加費に含まれる内容:大根(大人3本、子ども1本)、大根汁など
※収穫した大根は現地からご自宅に、宅配便で送ることができます(有料)。
※人気企画のため、参加経験のない方を優先させていただく場合があります。

子どもたちも夢中で畑に入ります。

お手伝いスタッフ募集！

本企画を事務局員と一緒に運営してくださる、お手伝いスタッフ(約5名)を募集いたします。当日、1時間ほど早めに来ていただき、お手伝いをお願いいたします。応募方法は、お申し込みの際、備考欄に「スタッフ希望」とご記入ください。

No.03 子どもたちの学校給食を求めて

2015学校給食全国集会　「どうする中国輸入食品！　～輸入食品の安全性を考える～」

一般の方も
お申込みOK

一部のマスコミが昨年秋に、学校給食で使われている中国産食材の現状調査結果を報道し、その安全性への警鐘を鳴らしました。

今回の全国集会では、「中国における食品の現状」や「輸入される食品の安全性」について学び合います。『学校給食ニュース』編集責任者の牧下圭貴さんには、「学校給食あれこれ～食材の安全と学校給食のしくみが問われた1年～」と題して、学校給食の最新事情を解説していただきます。

また、意見交換会では、各地の学校栄養士・調理員が、デリバリー給食、センター化、アレルギーなど、学校給食現場の事例を持ち寄ります。参加者みんなで活発な意見交換を行いましょう。

『学校給食ニュース』の牧下圭貴さん。

2014年の様子。

2015.3.28(土)
10:00－16:30

●**会 場** …… 東京ウィメンズプラザ・ホール(渋谷区神宮前5-53-67)
アクセス:東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道駅」より徒歩7分

●**駐車場**…… なし

●**講　師**…… 奥野修司さん(ジャーナリスト)
牧下圭貴さん(『学校給食ニュース』編集責任者)
里見宏さん(健康情報研究センター代表)
長谷川満さん(株式会社大地を守る会取締役)

●**参加費**…… **1,500円**

●**定　員**…… 200名

●**受付締切**… 3月13日(金)

●**お問合せ**… 全国学校給食を考える会(担当:牛島)　TEL:03-3402-8902

※託児はありません。
主催:全国学校給食を考える会、特定非営利活動法人日本消費者連盟
協力:照射食品反対連絡会

お申し込み：大地を守る会ホームページ **http://www.daichi.or.jp/info/event/**
または7ページの参加申し込み書をご提出ください。

お 問 合 せ：Tel.03-3402-8841　Fax.03-3402-5590

No.05 ホンモノの手作りチョコレート教室

春休み・親子限定！

製菓用チョコレートを溶かして固めるのではなく、インドネシア・パプア州で小規模農家たちがていねいに育てたカカオ（カカオマス・ココアバター）から、本当に手作りします。冷蔵庫で固めている間は、カカオ豆の殻を使ったお茶をいただきながら、産地やフェアトレードについてのお話を聞きます。もちろん、できあがったチョコレートはお持ち帰り♪

チョコレートがどのように作られているのかを楽しく学べます。

2015.3.31（火）
10:00－12:30

- **会 場**…… 新宿区立新宿消費生活センター分館・調理室
  アクセス：JR山手線「高田馬場駅」戸山口より徒歩2分
- **駐車場**…… なし
- **講　師**…… きまぐれや・吉田友則さん
- **参加費**…… 1組 **2,000円**
- **定　員**…… 親子12組24名
- **受付締切**… 3月13日（金）
- **お問合せ**… CSR推進部・大麻（おおあさ）

※持ちもの：エプロン、三角巾またはバンダナ
※対象は小学1年生以上です。必ず保護者の方がお付き添いください。定員に限りがあるため、保護者の方は1名でお願いいたします。
※託児はありません。
協力：特定非営利活動法人APLA

No.04 環境にも優しく自分らしい葬儀について

だいちサークル・イベント

だいちサークル・サロン部48回目　葬儀シリーズPart2

3回の葬儀シリーズの2回目です。テーマは、『みんなでイメージを出し合い自分らしい演出を…』。1回目では葬儀の現状・仕組みについて、また下準備をすることで、葬送で自分らしさを演出できることを知りました。今回は、「ここはこだわりたい」「ここはシンプルに」などイメージを膨らませながら、参加者で葬送の奥義について語り合いましょう。こんな葬儀をした、あるいは、してみたいなどの体験も聞かせてください。皆さんのご参加をお待ちしています。

2015.3.27（金）
13:30－15:30

- **会　場**…… 大地を守る会 六本木事務所 3階会議室（港区六本木）
  アクセス：東京メトロ日比谷線・都営地下鉄大江戸線「六本木駅」3番出口より徒歩5分
  ※エレベーターはありません。
- **駐車場**…… なし
- **講　師**…… これから楽交・安田かほるさん
- **参加費**…… 大人 **500円**
- **定　員**…… 20名
- **受付締切**… 3月6日（金）
- **お問合せ**… CSR推進部・來島（きたじま）

※託児はありません。

No.06 第4回山形村短角牛山上げ見学＆植林ツアー

短角牛のふるさとを満喫しましょう！

青空と新緑の牧野で記念撮影。

赤身のおいしさが見直され、注目度急上昇の山形村短角牛。健康に育つから安心でおいしい、その風景を見にいきませんか？ 冬、牛舎で生まれ、新緑の牧野に喜びいっぱいに駆け出す子牛たち。胸を打つ瞬間です。通常、関係者だけで行われる「山上げ」に立ち会えるのはこのツアーだけ！ 旧放牧地を森に還す植林活動、地元ガイドの方による自然散策、除伐や薪割りなど、山形村の自然を楽しむイベントも満載。民泊やBBQ交流会で、生産者の皆さんといただく短角牛は格別のおいしさです。山形村と短角牛を、目でも舌でも存分に味わってください。お一人での参加も大歓迎です。

子牛たちが駆ける姿は躍動感にあふれます。

2015.5.8（金）－5.10（日）

- **訪問先**…… 岩手県久慈市山形町
  ※東北新幹線「二戸駅」集合・解散となります。
  ※二戸駅までの往復交通手段は各自でご手配ください。
  ※現地でのバス代はツアー代金に含まれます。
- **駐車場**…… なし
- **参加費**…… 大人（中学生以上）**25,000円**、子ども（小学生以上）**15,000円**
  ※小学生未満は無料ですが、食事・布団の手配はありません（必要な場合は要相談）。
- **定　員**…… 20名
- **受付締切**… 3月20日（金）
- **お問合せ**… 森と木の住まいづくりフォーラム・鈴木
  TEL：043-213-5603（IT戦略部内）

企画：総合農舎山形村、大地を守る会専門委員会・森と木の住まいづくりフォーラム
協力：久慈市
受注旅行会社：株式会社大地を守る会（バグース・トラベル）
（東京都知事登録旅行業第3-4639号）

日程表（予定）

■5月8日（金）
【朝食×　昼食×　夕食○】
二戸駅にて集合→山上げ見学→牛舎見学→炭焼工場見学→民泊

■5月9日（土）
【朝食○　昼食○　夕食○】
総合農舎山形村見学（コロッケ作り）→成谷牧野で植林・散策（昼食）→除伐体験等→平庭山荘→生産者とBBQ

■5月10日（日）
【朝食○　昼食○　夕食×】
林業家訪問→間伐見学・薪割り体験→バッタリー村（昼食）→二戸駅にて解散

No.08 おっぱいとごはん

一般の方もお申込みOK

妊娠中、授乳中、離乳食、家族みんなのごはんを一緒に考えよう

「離乳食を食べてくれない」「おっぱいばかりで卒乳できるの？」「おっぱいがよく出る食事って？」「パパの分も同時に作るには？」

母乳110番に多く寄せられる「おっぱいとごはん」の悩みについて、講師のお2人によくあるケースと解決策を伺います。

お友だち招待特典

会員でないお友だちをお連れいただいた方と、お友だちには、大地を守る会の無添加ベビーフードをプレゼント！

2015.4.9（木）
10:30－12:30

- **会　場**…… グロースリンクかちどき（東京都中央区）
  アクセス：都営地下鉄大江戸線「勝どき駅」より徒歩2分、都バス「勝どき橋南詰停留所」徒歩1分
- **駐車場**…… なし
- **講　師**…… 母乳110番代表・竹中恭子さん、産婦人科専門医・村上麻里さん
- **参加費**…… **無料**
- **定　員**…… 30名
- **受付締切**… 3月6日（金）
- **お問合せ**… CSR推進部・小木曽（おぎそ）

※お子さんは会場にご一緒にお入りください。
※本イベントは会員の方も、一般の方も、1名様からお申込みいただけます。

絵：竹中恭子さん

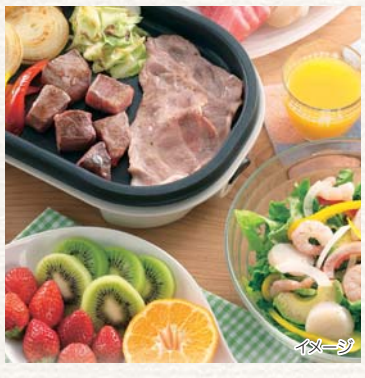
No.07 ご自宅で「オーガニックパーティー♪」

お友だち紹介！

★特典★パーティー用にお好きな食材どれでも【5,000円分無料】でご提供

ご好評・継続企画！
毎月　月～土曜日
11:00～17:00の間で2～3時間

お好きな食材を使ってご自宅で調理し、皆さんで大地を守る会の食材をお楽しみください♪



イメージ

- **会　場**……
  お申込会員様、またはお友だちのご自宅（宅配エリア内）
- **定　員**……
  会員様＋会員でないお友だち2名から
  ※当日、大地を守る会のスタッフ1名がお伺いし、食材・宅配についてご案内させていただきます。スタッフの滞在時間は30分～1時間前後です。
- **お申込み**… ご希望日の7日前まで。ご希望の日時をお知らせください。
- **お問合せ**… 会員サポートセンター
  TEL：043-213-2662
  Email：sc@member.daichi.or.jp
  「オーガニックパーティー」とお申し付けください。
  担当者より折り返し詳細をご案内します。

※お友だちは会員制宅配可能エリアにお住まいの方限定です。
※ご予約が埋まっている場合は、日程の変更をお願いする場合があります。
※他サービスとの併用はできません。

おいしい
オーガニック
革命

イベント大地を守る

生産者のお話とともに、愛情込めて育てられた真珠の輝きを感じてみませんか？

無茶々園アコヤ真珠ジュエリー展示即売会

毎年ご好評をいただいている、無茶々園アコヤ真珠の展示即売会。愛媛県西予市の美しい海で、手間ひまかけて育てられた真珠が会場に並びます。宅配でおなじみのネックレスやペンダントに加え、ブローチなどふだん使いにおすすめの小物もご紹介予定です。育て方で品質が変わる真珠はまさに「生き物」。生産者のお話で、真珠の魅力を存分に感じていただけます。生産者の佐藤和文さんは宝石鑑定士の資格もお持ちなので、よい真珠・宝石の選び方についても尋ねてみてください。力強い輝きを放つ真珠をご覧になるだけでも、お気軽にお越しください。

商品イメージ

2015.3.13(金) 11:00−16:00
2015.3.14(土) 11:00−16:00

時間内のご都合のよいときに直接、会場にお越しください。

- **会　場**…… 大地を守る会 六本木事務所 3階会議室（港区六本木6-8-15 第2五月ビル）
  アクセス：東京メトロ日比谷線・都営地下鉄大江戸線「六本木駅」3番出口より徒歩5分
  ※エレベーターはありません。
- **駐車場**…… なし
- **参加費**…… **無料**
- **お問合せ**… 生活文化チーム TEL：043-380-5007

※事前申し込みは不要です。
※商品購入時、カード決算が可能です。

真珠お話会

両日14:00より、真珠お話会があります。講師は、無茶々園・佐藤宏二さん、和文さん。写真を交えて、養殖作業の様子やよい真珠の見分け方について、30分程度お話しいただきます。事前申し込みは不要です。

生産者の佐藤さん親子。

大地を守る会のオススメ映画

『小さき声のカノン』 ― 選択する人々 ―

2015年3月7日（土）よりシアター・イメージフォーラムにて公開、ほか全国順次

はじめはみんな、泣き虫なふつうのお母さんだった。福島、そしてチェルノブイリ後のベラルーシ。国境を越え、母たちは、“希望”を選択し、自分たちの足で立ち上がった。

本作の主人公は、2011年の福島原発事故、そして1986年のチェルノブイリ原発事故後を、心を揺らしながらも生き抜こうと前を向く母親たち。ふつうの主婦たちが「泣いていても何も変わらない」と勇気をもって声をあげ、自分たちの暮らしや子どもたちの命を守ろうとする姿が生き生きと描かれている。

■公式サイト　http://kamanaka.com/canon/

監督：鎌仲ひとみ／プロデューサー：小泉修吉／音楽：Shing02／ 撮影：岩田まきこ／録音：河崎宏一／編集：青木亮／助監督：宮島裕／製作・配給：ぶんぶんフィルムズ／2014年／カラー／デジタル／119分
©ぶんぶんフィルムズ

大地を守る会のオススメ映画

『みんなの学校』すべての子どもに居場所がある学校を

2015年2月21日（土）より渋谷・ユーロスペースにて公開、ほか全国順次

学校が変われば地域が、そして社会が変わる。

大空小学校がめざすのは、「不登校ゼロ」。発達障害がある子も、自分の気持ちをコントロールできない子も、同じ教室で学びます。ふつうの公立小学校ですが、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人も一緒になって、学校を作りあげてきました。映画では、日々生まれかわるように育っていく子どもたちの瞬間、教職員や保護者たちの苦悩、戸惑い、喜び……。そのすべてをありのままに映していきます。

学びとは何でしょう？ あるべき公教育の姿とは？ 大空小学校には、そのヒントが溢れています。

■公式サイト　http://www.minna-movie.com

©関西テレビ放送

出演：大空小学校のみんな／監督：真鍋俊永／製作：関西テレビ放送／配給：東風／ 2014年／日本／ 106分／BD・DCP／ドキュメンタリー
©関西テレビ放送

『みんなの学校』特別割引クーポン券

チケット販売窓口で本クーポンをご提示いただくと、当日一般料金より200円割引になります。（1,800円→1,600円）
※渋谷・ユーロスペースのみ有効。1枚で2名様までお使いいただけます。
※ユーロスペース：東京都渋谷区円山町1-5（渋谷・文化村前交差点左折）
※ほかの割引券との併用はできません。

キリトリ

キリトリ線

3月号　参加申し込み書　→六本木行

イベントNo	イベント名	交通手段（○をつけてください） 車　電車（バス）
名　前	会員番号	TEL　（　　）
参加人数	参加者全員の名前（お子さんは年齢・学年も） 名	
備　考		

※複数の企画にお申し込みの場合は、「別紙」や「連絡便」などに必要事項をご明記いただき、ご提出ください。

キリトリ線

イベントのお申し込み方法

参加申し込み書を切り取り、注文書ケースに入れて、ご提出いただく（締切日当日提出分まで）か、大地を守る会・ホームページにて必要事項をご明記の上、お申し込みください。

大地を守る会・ホームページ：**www.daichi.or.jp/info/event/**

【ご家族、お友だちもご参加いただけます】
お申込みいただく大地を守る会の会員さんのご家族やお友だちもご参加いただけます※。

【一般の方のお申込みについて】
「一般の方もお申込みOK」のマークがあるイベントは、大地を守る会ホームページ、電話、ファックスなどで、大地を守る会会員以外の方が直接お申込みいただけます※。
※抽選となる場合は、大地を守る会会員のみでお申込みいただく方を優先する場合があります。

【抽選について】
ご応募多数の場合は抽選とさせていただきます。
抽選の結果は、開催日の1週間前ぐらいまでに郵送にてお送りいたします。

【お申し込み時の個人情報の取り扱い】
お申し込みの際の個人情報は、イベントなどの実施のために利用します。ご同意の上、お申し込みください。個人情報に関する詳細は「大地を守る会・ホームページ（www.daichi.or.jp/gateway/privacy_policy）」をご覧ください。

【写真撮影について】
イベントの様子は、写真で記録をとらせていただきます。撮影した写真は、大地を守る会のホームページやカタログ、グループ会社の広報媒体に掲載させていただく可能性があります。予めご了承ください。

イベント情報に関するお問合せはCSR推進部へ　お電話 03-3402-8841　FAX 03-3402-5590

だいぶくと一緒にいろいろ発見しよう！

大地を守るこどもニュース

今月のあぶら［オリーブオイル］

食べものの質問に答えるよ。
食べたことはあるかな？

オリーブオイルってなあに？

オリーブオイルは、**オリーブの実から搾った油**のことです。もともとイタリア、スペインなど地中海の周りに住む人びとが食べていましたが、日本でも食べる人が増えてきました。日本ではスパゲッティを炒めたりサラダにかけたりして使われることが多いですが、パンにつけて食べる人も増えてきました。

「パレスチナ」も地中海の周り地域で、オリーブオイルが作られています。パレスチナの農家の人たちにとって、オリーブは大切な作物です。しかし、パレスチナはイスラエルと土地をめぐるあらそいがあり、オリーブの木がイスラエルのブルドーザーなどで引き抜かれ、パレスチナのオリーブ農家は困っています。そこで**大地を守る会は平和を願い、パレスチナの人びとの生活がよくなるようにオリーブオイルを売っています。**

完全に熟した実を選んで使います。

オリーブオイルをつくる人

生産者からメッセージが届いたよ！

UAWC（パレスチナ農業開発委員会）
ハリード・ヒドミさん

生産地
パレスチナ自治区（ヨルダン川西岸地区）

石ころだらけの乾いた丘が続き、農業には不向きな土地ですが、古くからオリーブの木が多く栽培されています。イスラム教、ユダヤ教、キリスト教の聖地があります。

味が自慢のオリーブオイルです

オリーブの実の収穫は、10月から11月にかけて行われます。ビニールシートを木の下にしいて、家族全員で実を落としていきます。集められた実は村の工場で搾ってオリーブオイルを作ります。大地を守る会向けには一番おいしいものを出荷しています。味には自信があります。塩と混ぜてパンにつけてもおいしいですよ。

収穫のときは、子どもたちも一緒にオリーブの実をひろいます。

大地を守るコトバ

第一次産業（日本では、農業・林業・漁業のこと）に関するコトバを解説するよ！

【　パレスチナ　】

「パレスチナ」と呼ばれる場所は、長いあいだ「パレスチナ人」が住んできた地中海に面した地域です。パレスチナ人はイスラム教を信じ、アラビア語を話すアラブの人びとです。そこに第二次世界大戦後、ユダヤ教を信じる人びとが「イスラエル」という国をつくり、昔そこに住んでいたと主張し、パレスチナとイスラエルの対立が始まりました。イスラエルはテロを理由にパレスチナを囲む大きな壁を作るなど、世界的な問題になっています。

高さ8メートルのコンクリートの壁で囲まれているため、パレスチナの人びとは自由に移動ができません。

クイズ

できるかな？ 大地を守る会のクイズに挑戦してみよう！

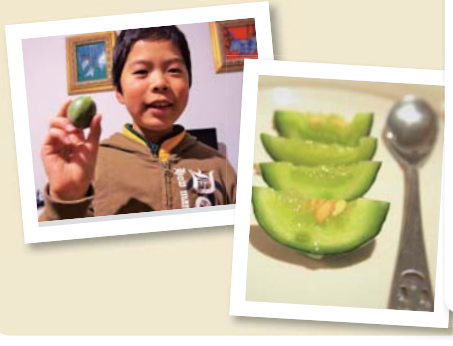
オリーブオイルを一番多く生産している国はどこでしょう？

①イタリア
②スペイン
③パレスチナ

答えはこのページの一番下にあるよ。

交流ひろば

みんなのお便りや写真を紹介するよ！



内田琉くん（小学５年生）から、お便りが届きました！

小野寺さんのメロンがおいしかったので、食べた後に種をとって、まいてみました。発芽するかな？と思っていたら、秋にちゃんと芽が出ました。プランターで育ててみると、花が咲き、11階のベランダにみつばちが来ました。みつばちの足には黄色い花粉がついていました。それから3日後、実がふくらみはじめましたが、5センチほどの小さな実を残して枯れてしまいました。実を食べてみると……!! おいしい！ すごく熟れていて、食感はきゅうりのようでしたが、香りや味は甘くてびっくりしました。来年は春に種をまいて、再挑戦したいです。

みんなからのお便り・写真を待ってるよ！

みんなの知りたいことやこのページの感想、大地を守る会のイベントに参加したときの写真など、なんでもOKです。

●連絡便　クリアファイル（注文書ケース）に入れて、連絡便でお送りください。
●郵送　〒106-0032 東京都港区六本木6-8-15 第２五月ビル２階 NEWS大地を守る編集部　あて
●メール　csr@member.daichi.or.jp

※送っていただいたお便りや写真は返却できません。誌面に掲載させていただく方のみ、編集部よりご連絡させていただきます。ご了承ください。

正解は②です。2番目はイタリアとスペインが競い合っています（参考：International Olive Council）。パレスチナはとても少なく10番目にも入りませんが、作る人の顔が見える貴重なものです。